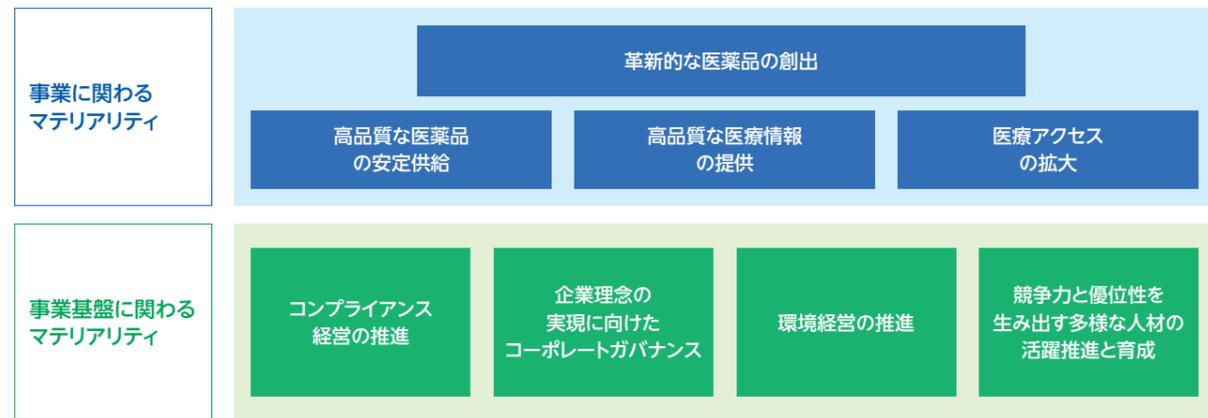


第一三共のマテリアリティ

第一三共グループは、「革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」という企業理念のもと、事業活動を通じて社会やステークホルダーの皆さまへ持続的に価値を提供し、同時に当社グループの成長と発展を図っていきます。2019年度は、事業活動における優先度の高い課題として、「革新的な医薬品の創出」をはじめとする事業に関わる4つのマテリアリティと、「ガバナンス」「環境経営」など事業基盤に関わる4つのマテリアリティを特定しました。

8つのマテリアリティ

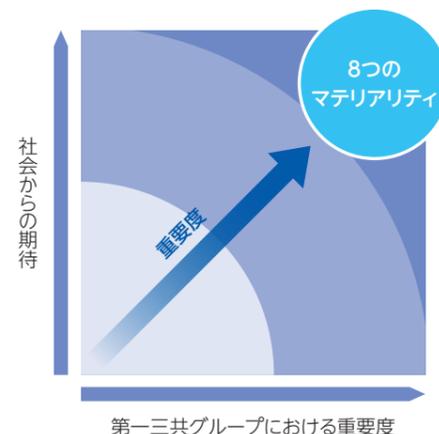
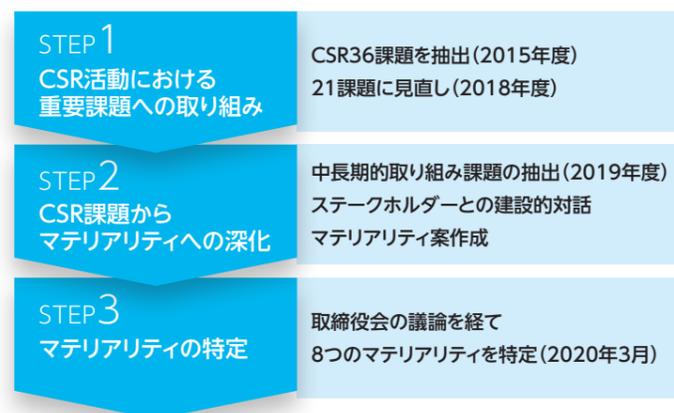


価値創造のための8つのマテリアリティ

当社の価値創造の根幹である「革新的な医薬品を継続的に創出」していくことが、当社グループが取り組むべき最重要課題です。研究開発を通じて生み出した医薬品を患者さんにお届けするためには、高品質な医薬品の安定供給、高品質な医療情報の提供、医療アクセスの拡大が重要となります。また、持続可能な経営基盤の強化として、コンプライアンス経営の推進、企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス、環境経営の推進を、事業を支える重要な課題として取り組みます。さらに、当社グループの事業活動の競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成についても、引き続き重要課題として取り組んでまいります。

マテリアリティの特定プロセス

マテリアリティの特定と整理にあたっては、2015年度にCSRの観点から、36課題を選定し、2018年度には21課題に見直しました。さらに、2019年度にCSRIに事業およびガバナンスの観点を加えた上で、当社グループの中長期的な企業価値へ影響を及ぼす重要度と、当社グループのさまざまなステークホルダーを含む社会からの期待の両面から、中長期的取り組み課題を抽出し、ステークホルダーとの対話を通じてマテリアリティ案を作成しました。そして、取締役会での2度の議論を経て、8つのマテリアリティとして特定しました。



マテリアリティ特定の背景と基本的な考え方

事業に関わるマテリアリティ

革新的な医薬品の創出

第一三共グループのパーパス(存在意義)は、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献することです。最先端のサイエンス&テクノロジーを活用し、グローバルに多様なメンバーが一つになり革新的な医薬品の創出に全力で取り組むことで、アンメットメディカルニーズを満たすとともにグループの持続的な成長を図っていきます。

詳細は
P70~参照

高品質な医療情報の提供

医薬品の持つベネフィットを最大化し、リスクを最小化するためには、医薬品を適切に使用する必要があります。第一三共グループは、これまでの適正使用推進の取り組みに加え、高度な専門性と迅速な判断が求められるオンコロジー領域においても、高品質な医療情報を的確に発信し、医療に貢献していきます。

詳細は
P62~参照

高品質な医薬品の安定供給

製薬企業は、高品質な医薬品を確実に、そして安定的に供給する責務があります。第一三共グループは、高度な製造技術が必要とし、適切な品質管理が求められる製品群が増える中、堅牢なグローバル生産供給体制を確立し、高品質な医薬品を安定的に世界中の患者さんにお届けしていきます。

詳細は
P80~参照

医療アクセスの拡大

アンメットメディカルニーズへの対応に加え、公衆衛生や教育、所得格差などのさまざまな社会的要因により十分な医療を受けられないなどの課題に取り組むことは、製薬企業の重要な使命の一つです。第一三共グループでは、このような課題に対し、社内外のリソースを有効活用して取り組み、医療アクセスの拡大に貢献していきます。

詳細は
P49~参照

事業基盤に関わるマテリアリティ

コンプライアンス経営の推進

企業の持続的成長にはコンプライアンスの徹底は欠かせません。第一三共グループは、コンプライアンスを単なる法令およびルール等の遵守にとどまらず、生命関連企業としてふさわしい高い倫理観と社会的良識をもって行動することと捉え、全ての事業活動を行ってまいります。

詳細は
P51~参照

環境経営の推進

地球温暖化の進行に伴って、世界各地における自然災害の増加など、さまざまな問題が顕在化しています。第一三共グループは、これらの環境問題について、長期的なビジネスにも影響を及ぼすリスク要因であると認識し環境経営を推進しています。環境経営を推進することで社会と企業の持続的な成長を目指していきます。

詳細は
P53~参照

企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス

環境変化に迅速かつ機動的に対応できる経営体制を構築することが、持続的成長には必要不可欠です。第一三共グループは、経営と執行の監督機能の強化を図り、実効性あるコーポレートガバナンス体制を推進していきます。

詳細は
P19~参照

競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成

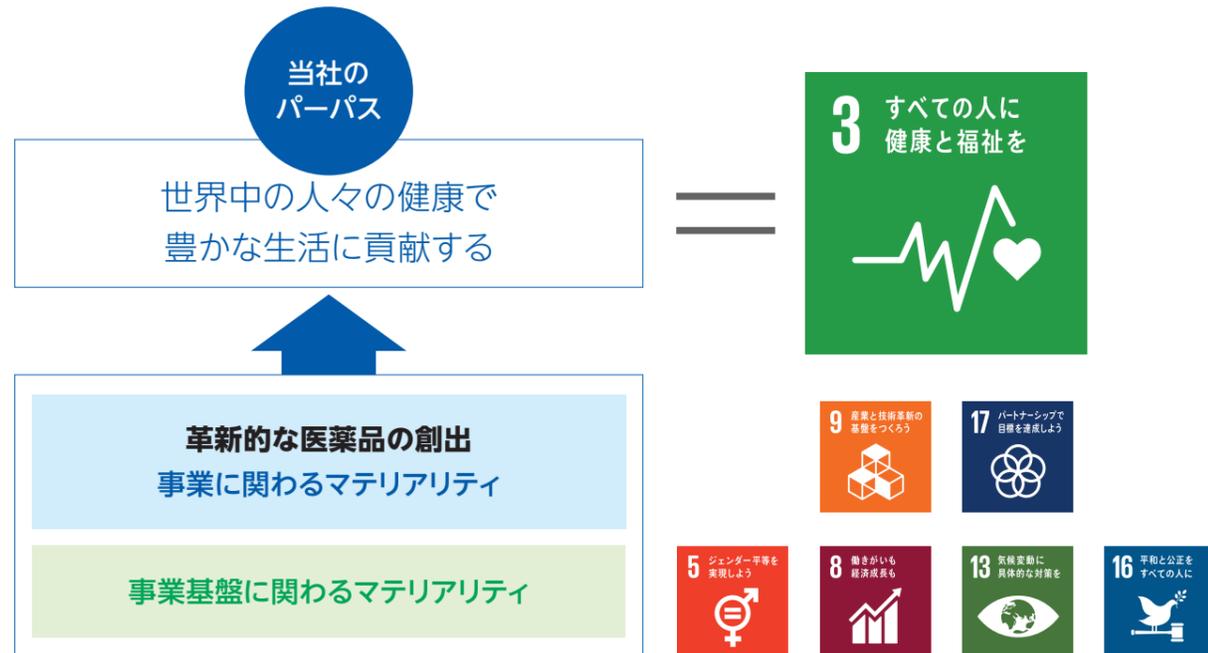
第一三共グループでは、「人」を最重要な「資産」として位置付け、人材マネジメント理念に基づき社員一人ひとりの多様性を尊重することが、持続的な成長に不可欠と考えています。多様な人材の活躍推進と育成により、社員と会社の相互の成長を目指すことで、競争力と優位性の創出につなげていきます。

詳細は
P57~参照

第一三共のマテリアリティ

マテリアリティを通じたSDGsへの貢献

当社グループは、革新的な医薬品の創出をはじめとするマテリアリティへの取り組みを通じて企業理念の実現を目指しています。企業理念の中で掲げている「世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献すること、これが当社グループのパーパス(存在意義)であり、同時に、国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)の目標3「すべての人に健康と福祉を」にもつながっています。

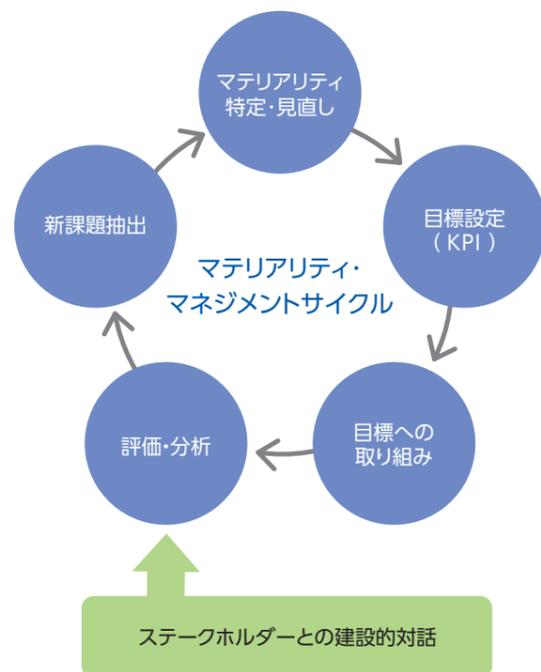


マテリアリティ・マネジメントサイクル

特定したマテリアリティ毎に目標を設定し、具体的な取り組みを進めていきます。また、有効な評価・分析につなげるために今後、KPI*を設定し、取り組みの進捗と達成度を評価します。評価・分析に際しては、さまざまなステークホルダーの皆さまとの建設的な対話を通じ社内外の視点を取り入れつつ、リスクと事業機会についてのアセスメントも行い、新たな課題抽出につなげていきます。

取り組みの進捗と達成度については毎年評価を行い、その際にマテリアリティ見直しの可否についても確認します。

* Key Performance Indicator (主要業績評価指標) の略



また、事業に関わるマテリアリティへの取り組みが、イノベーションの推進(目標9)やパートナーシップの促進(目標17)に貢献しており、事業基盤に関わるマテリアリティへの取り組みが、ジェンダー平等(目標5)、働きがい(目標8)、気候変動対策(目標13)、コンプライアンス重視による平和と公正(目標16)などに貢献しています。

マテリアリティと取り組み事例

マテリアリティ	取り組み事例	SDGs
革新的な医薬品の創出	<ul style="list-style-type: none"> 画期的新薬指定制度を活用した開発加速・早期薬事承認の取得 最先端のサイエンス&テクノロジーを適用した疾患研究の推進とマルチモダリティ戦略による革新的医薬品の創出 Omicをを活用したトランスレーショナルリサーチの強化 アカデミア・バイオテックや異業種との積極的な協働関係(オープンイノベーション) 境界を越えて協働できる研究開発人材の能力開発 	3, 9, 17
高品質な医薬品の安定供給	<ul style="list-style-type: none"> 原薬、製剤、品質評価に関する研究を通じた高品質で安定的に生産できる商用生産プロセス開発 製品構成変化に適した柔軟かつ効率的なグローバル生産供給体制(サプライチェーンマネジメント)の整備 DS-8201をはじめとしたADC、Axi-Cel™、がん治療ウイルスといった先進的医薬品の生産供給体制整備 GMPに則り、原材料の納入から生産、製品の出荷を通して科学的に裏づけられた手法により製品の品質を保証 有事の際の速やかな業務復旧、医療体制維持のための医薬品安定供給と品質確保を可能とする体制の整備(原材料の安定調達等) 	3, 9, 17
高品質な医療情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品の持つベネフィットを最大化し、リスクを最小化する、科学的根拠に基づいたグローバル開発 グローバルで安全性情報を一元管理し、評価・分析した結果を医療現場に情報提供することで適正使用を推進 製品上市後も、患者さんへのさらなる貢献のため、臨床研究等を通じてリアルワールドにおける新たな情報を創出 チーム医療を担う医療関係者のニーズに応える医療情報提供活動の実施 コールセンターの専門性を高め、AIも活用して迅速に適切かつ医療関係者からの多様な問合せに対応 	3, 9, 17
医療アクセスの拡大	<ul style="list-style-type: none"> 希少疾患への持続的な取り組み 感染症領域の研究開発と薬剤耐性(AMR)対策の推進 低所得国および低中所得国における非感染性疾患(NCDs)改善を目的としたAccess Acceleratedへの参画 開発途上国における感染症征圧のための創薬促進を目的とした、官民連携のグローバルヘルス技術振興基金「GHIT Fund」への参画 ミャンマーにおける移動診療サービスの実施 	3, 9, 17
コンプライアンス経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> 第一三共グループ個人行動規範の周知徹底 贈賄および腐敗防止に関するグローバルポリシーの運用 倫理的マーケティング 研究開発倫理・生命倫理と遺伝資源への配慮 調達におけるコンプライアンスの推進 人権尊重に関する取り組み 	10, 15, 16
企業理念の実現に向けたコーポレートガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役の取締役会議長就任 社外役員への事前説明を通じた理解促進と取締役会の議論の充実 取締役会評価を通じた取締役会の実効性の向上 社外役員のみで構成された指名委員会と報酬委員会の議論の充実 	16
環境経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「省エネ」診断を活用したエネルギー使用の効率化と再生可能エネルギー活用によるCO₂排出量の削減 TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言に沿った情報の開示 環境パフォーマンスデータの第三者保証取得による情報の信頼性向上 適正利用での使用量の削減、浄化装置による再利用の推進等での水資源の取り組み 環境監査を通じた環境法令等の遵守・徹底と環境マネジメントシステムの最適化 	6, 7, 12, 13
競争力と優位性を生み出す多様な人材の活躍推進と育成	<ul style="list-style-type: none"> 次世代リーダー育成を中心施策としたグループタレントマネジメントの実施 ダイバーシティ&インクルージョンの推進 女性活躍推進行動計画に沿った取り組み実施 労働安全衛生の推進と働き方改革 ワークライフサイクルの推進 	5, 8, 9